

様式第2号の1－①【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の1－②を用いること。

学校名	山口大学
設置者名	国立大学法人山口大学

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

学部等名	学科名	夜間・ 通信 制の 場合	実務経験のある 教員等による 授業科目の単位数				省令 で定 める 基準 単位 数	配 置 困 難
			全学 共通 科目	学部 等 共通 科目	専門 科目	合計		
人文学部	人文学科	夜・ 通信	4		10	14	13	
教育学部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 小学校総合選修	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教育学選修	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 心理学選修	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 国際理解教育選修	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 幼児教育コース	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 特別支援教育コース	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 情報教育コース	夜・ 通信	4		17	21	13	
	学校教育教員養成課程 教科教育コース	夜・ 通信	4		17	21	13	
経済学部	経済学科	夜・ 通信	4		30	34	13	
	経営学科	夜・ 通信	4		30	34	13	
	観光政策学科	夜・ 通信	4		30	34	13	
理学部	数理科学科	夜・ 通信	4		14	18	13	
	物理・情報科学科	夜・ 通信	4		14	18	13	

	化学科	夜・通信	4		15	19	13	
	生物学科	夜・通信	4		14	18	13	
	地球圏システム科学科	夜・通信	4		12	16	13	
医学部	医学科	夜・通信	4		30	34	19	
	保健学科 看護学専攻	夜・通信	4		11	15	13	
	保健学科 検査技術科学専攻	夜・通信	4		15	19	13	
工学部	機械工学科 航空宇宙コース	夜・通信	4		15	19	13	
	機械工学科 生体・ロボットコース	夜・通信	4		18	22	13	
	社会建設工学科 社会建設工学コース	夜・通信	4		17	21	13	
	社会建設工学科 東アジア国際コース	夜・通信	4		23	27	13	
	応用化学科	夜・通信	4		14	18	13	
	電気電子工学科	夜・通信	4		14	18	13	
	知能情報工学科	夜・通信	4		18	22	13	
	感性デザイン工学科	夜・通信	4		14	18	13	
	循環環境工学科	夜・通信	4		16	20	13	
農学部	生物資源環境科学科	夜・通信	4		24	28	13	
	生物機能科学科	夜・通信	4		24	28	13	
共同獣医学部	共同獣医学科(R6 入学者～) 獣医学科(～R5 入学者)	夜・通信	4		39	43	19	
国際総合科学部	国際総合科学科	夜・通信			14	14	13	
ひと・まち未来共創学環	-	夜・通信			24	24	13	
(備考) 理学部 生物・化学科(生物学コース)、理学部 生物・化学科(化学コース)は2021年度より募集停止。 共同獣医学部は令和6年度入学者より獣医学科から共同獣医学科へ名称変更。 教育学部 学校教育教員養成課程 小学校教育コース 心理学選修は、2025年度より募集停止。								

ひと・まち未来共創学環は、2025 年度より設置され、2028 年度に完成年度を迎える予定である。

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/higher_education_study_support/index.html

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)
該当なし

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	山口大学
設置者名	国立大学法人山口大学

1. 理事（役員）名簿の公表方法

- | |
|---|
| 1. HPの公開
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/officers_employees/index.html
2. 山口大学要覧 2025 |
|---|

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	株式会社ファウンダー 株式会社社外取締役	2024.4.1 ～ 2026.3.31	大学戦略
非常勤	株式会社社外取締役	2024.4.1 ～ 2026.3.31	研究戦略
(備考)			

様式第2号の3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	山口大学
設置者名	国立大学法人山口大学

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 (授業計画書の作成・公表に係る取組の概要) 本学では、修学支援システム等を通じて、全授業科目において授業計画(シラバス)が作成されています。授業計画(シラバス)の内容として、科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されています。 なお、授業計画(シラバス)は、該当年度の前年度の12月から作成を開始し、3月中旬頃に公開しています。 教育・学生支援機構において、新任教員研修やFD研修等で授業計画(シラバス)作成の注意点等を指導しています。 また、授業計画(シラバス)の作成に関するガイドラインを作成し、webページに公開し、全教員に周知しています。	
授業計画書の公表方法	https://www.kyoumu.jimu.yamaguchi-u.ac.jp/Portal/Public/Syllabus/
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。 (授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要) 「成績評価等に関するガイドライン」に基づき、授業計画(シラバス)に示されている科目の到達目標、成績評価の方法に則って厳格かつ適正な評価を実施し、単位を授与しています。	

3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

（客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要）

本学ではGPA制度を全学導入しており、修学支援システムにおいて成績確認画面にGPAを表示し、学生自身が履修状況を確認できるようにしています。GPA制度の運用方法としては、奨学金などの経済的支援、就職への推薦など、個々の学生の学修におけるインセンティブへの活用や修学指導があります。

なお、GPは次のとおりです。

区分	評価	評点	GP
合格	秀、認定（秀）	100～90点	4
	優、認定（優）	89～80点	3
	良、認定（良）	79～70点	2
	可、認定（可）	69～60点	1
不合格	不可	59～0点	0
欠席（不合格）	—	—	0
GPA対象外	認定科目（評語による評価を含めて単位認定する授業科目は除く。）		—

GPAの計算方法は次のとおりであり、小数点以下第二位未満の端数がある場合は切り捨てます。

$$\text{GPA} = (4 \times \text{「秀」の修得単位数} + 3 \times \text{「優」の修得単位数} + 2 \times \text{「良」の修得単位数} + 1 \times \text{「可」の修得単位数}) \div \text{履修登録単位数}$$

この算出方法により、GPAの数値を算出しています。

また、客観的な成績評価基準のあり方として、「成績評価等に関するガイドライン」に基づき、シラバスで示された科目の到達目標、成績評価の方法に則って成績評価を厳格に行っています。併せて、本学では、各教員による成績評価分布を共有し、全教員がお互いの成績評価の状況を閲覧することができ、成績評価の客観性の確保と向上に貢献しています。

客観的な指標の
算出方法の公表方法

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~k-kyoumu/kyoutuu/grades/index.html>

4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。

（卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要） 本学では、全学的なアドミッション・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、ディプロマ・ポリシーを規定し、ホームページ等で公表しています。 また、全学的なポリシーに基づき、各学部等におけるディプロマ・ポリシーを規定し、ホームページにより学内外に公表しています。 なお、各学部等における卒業の認定については、ディプロマ・ポリシー、学生の卒業に必要な修得単位数等を踏まえ、卒業を認定しています。	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	https://www.yamaguchi-u.ac.jp/campus/dp/index.html

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	山口大学
設置者名	国立大学法人山口大学

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/11zaimushohyou/16zaimushohyou.html
収支計算書又は損益計算書	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/11zaimushohyou/16zaimushohyou.html
財産目録	
事業報告書	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/11zaimushohyou/16zaimushohyou.html
監事による監査報告（書）	http://ds.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~syukei/11zaimushohyou/16zaimushohyou.html

2. 事業計画（任意記載事項）

単年度計画（名称：	対象年度：
公表方法：	
中長期計画（名称：	対象年度：
公表方法：	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法：
https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/jikotennkennhyokasystem/index.html

(2) 認証評価の結果 (任意記載事項)

公表方法：

（３）学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名
教育研究上の目的 （公表方法：https://www.yamaguchi-u.ac.jp/campus/dp/index.html） （概要） 本学では、各学部等において「人材育成の目的」を定めています。詳細については公表方法に記載したホームページ上で学部・学環毎に記載しています。
卒業又は修了の認定に関する方針 （公表方法：https://www.yamaguchi-u.ac.jp/campus/dp/index.html） （概要） 本学では、全学的なディプロマ・ポリシーを規定し、ホームページ等で公表しています。 各学部等のディプロマ・ポリシーは公表方法に記載したホームページのとおりです。
教育課程の編成及び実施に関する方針 （公表方法：https://www.yamaguchi-u.ac.jp/campus/cp/index.html） （概要） 本学では、全学的なカリキュラム・ポリシーを規定し、ホームページ等で公表しています。 各学部等のカリキュラム・ポリシーは公表方法に記載したホームページのとおりです。
入学者の受入れに関する方針 （公表方法：https://www.yamaguchi-u.ac.jp/nyushi/admissionpolicy/index.html） （概要） 本学では、全学的なアドミッション・ポリシーとして、求める学生像、入学者選抜の基本方針を示し、各学部学科等のアドミッション・ポリシーとして、「教育理念」「目標」、学部学科等が求める学生像、大学入学までに身につけておくべき教科・科目等を示し、学生募集要項やホームページ等で公表しています。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法： https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/publication_educational_info/index.html
--

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）							
学部等の組織の名称	学長・副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	7人	－					7人
人文学部	－	21人	13人	5人	0人	0人	39人
教育学部	－	34人	24人	16人	0人	0人	74人
経済学部	－	22人	21人	6人	0人	0人	49人
医学部	－	3人	0人	1人	1人	0人	5人
共同獣医学部	－	15人	13人	0人	16人	0人	44人
国際総合科学部	－	10人	10人	8人	0人	0人	28人
大学院	－	168人	111人	49人	103人	4人	435人
附属病院	－	2人	19人	38人	112人	0人	171人
その他	－	18人	21人	7人	27人	0人	73人
b. 教員数（兼務者）							
学長・副学長		学長・副学長以外の教員					計
0人		440人					440人
各教員の有する学位及び業績 （教員データベース等）		公表方法： https://researcher.yamaguchi-u.ac.jp/					
c. F D（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）							

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
人文学部	185人	188人	101.6%	740人	791人	106.9%	人	人
教育学部	155人	160人	103.2%	695人	736人	105.9%	人	人
経済学部	330人	338人	102.4%	1,365人	1,439人	105.4%	人	人
理学部	220人	226人	102.7%	880人	933人	106.0%	人	人
医学部	229人	237人	103.5%	1,178人	1,195人	101.4%	10人	10人
工学部	530人	540人	101.9%	2,160人	2,351人	108.8%	20人	24人
農学部	100人	105人	105.0%	400人	428人	107.0%	人	人
共同獣医学部	30人	30人	100.0%	180人	188人	104.4%	人	人
国際総合科学部	100人	102人	102.0%	400人	437人	109.3%	人	人
ひと・まち 未来共創学 環	40人	43人	107.5%	40人	43人	107.5%	人	人

合計	1,919 人	1,969 人	102.6%	8,038 人	8,541 人	106.3%	30 人	34 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数

学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
人文学部	185 人 (100%)	7 人 (3.8%)	157 人 (84.9%)	21 人 (11.3%)
教育学部	186 人 (100%)	19 人 (10.2%)	162 人 (87.1%)	5 人 (2.7%)
経済学部	324 人 (100%)	5 人 (1.5%)	302 人 (93.2%)	17 人 (5.3%)
理学部	189 人 (100%)	81 人 (42.9%)	97 人 (51.3%)	11 人 (5.8%)
医学部	237 人 (100%)	14 人 (5.9%)	215 人 (90.7%)	8 人 (3.4%)
工学部	522 人 (100%)	364 人 (69.7%)	151 人 (28.9%)	7 人 (1.4%)
農学部	89 人 (100%)	43 人 (48.3%)	43 人 (48.3%)	3 人 (3.4%)
共同獣医学部	33 人 (100%)	2 人 (6.1%)	30 人 (90.9%)	1 人 (3.0%)
国際総合科学部	100 人 (100%)	5 人 (5.0%)	94 人 (94.0%)	1 人 (1.0%)
合計	1865 人 (100%)	540 人 (28.9%)	1251 人 (67.1%)	74 人 (4.0%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数（任意記載事項）

学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

（概要） 本学では、修学支援システム等を通じて、全授業科目において授業計画（シラバス）が作成されています。授業計画（シラバス）の内容として、科目の到達目標、授業形態、事前・事後学修の内容、成績評価の方法・基準が示されています。 なお、授業計画（シラバス）は、該当年度の前年度の12月から作成を開始し、3月中旬頃に公開しています。 教育・学生支援機構において、新任教員研修やFD研修で授業計画（シラバス）作成の注意点を指導しています。 また、授業計画（シラバス）の作成に関するガイドラインを作成し、webページに公開し、全教員に周知しています。
--

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

（概要） 本学では、「成績評価等に関するガイドライン」に基づき、授業計画（シラバス）で示された科目の到達目標、成績評価の方法・基準に則って厳格かつ適正な評価を実施し、単位を授与しています。 また、各学部等における卒業の認定については、ディプロマ・ポリシー、学生の卒業に必要な修得単位数等を踏まえ、卒業を認定しています。以下に、令和7年度入学者の学部学科等別の卒業に必要な単位数を記載する。				
学部等名	学科名	卒業又は修了に必要な単位数	GPA制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
人文学部	人文学科	124 単位	有・無	
教育学部	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 小 学校総合選修	128 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 教育学選修	128 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 心理学選修	128 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 小学校教育コース 国際理解教育選修	128 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 幼児教育コース	127 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 特別支援教育コース	138 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 情報教育コース	126 単位	有・無	
	学校教育教員養成課程 教科教育コース	126 単位	有・無	
経済学部	経済学科	124 単位	有・無	
	経営学科	124 単位	有・無	
	観光政策学科	124 単位	有・無	

理学部	数理科学科	124 単位	有・無	
	物理・情報科学科 物理学コース	124 単位	有・無	
	物理・情報科学科 情報科学コース	124 単位	有・無	
	化学科	124 単位	有・無	
	生物学科	124 単位	有・無	
	地球圏システム科学科 地域環境科学コース	124 単位	有・無	
	地球圏システム科学科 環境物質科学コース	124 単位	有・無	
医学部	医学科	193 単位	有・無	
	保健学科 看護学専攻	137 単位	有・無	
	保健学科 検査技術科学専攻	138 単位	有・無	
工学部	機械工学科 航空宇宙コース	126 単位	有・無	
	機械工学科 生体・ロボットコース	126 単位	有・無	
	社会建設工学科 社会建設工学コース	130 単位	有・無	
	社会建設工学科 東アジア国際コース	130 単位	有・無	
	応用化学科	130 単位	有・無	
	電気電子工学科	129 単位	有・無	
	知能情報工学科	126 単位	有・無	
	感性デザイン工学科	126 単位	有・無	
	循環環境工学科	124 単位	有・無	
農学部	生物資源環境科学科	124 単位	有・無	
	生物機能科学科	124 単位	有・無	
共同獣医学部	共同獣医学科	195 単位	有・無	
国際総合科学部	国際総合科学科	124 単位	有・無	
ひと・まち未来共 創学環	-	128 単位	有・無	
G P A の活用状況（任意記載事項）		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 （任意記載事項）		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：

<https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~st-support/st-support-center/tebiki/campus-map/index.html>

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部等名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他 ※	備考（任意記載事項）
人文学部	人文学科	全学部・学環 全学科 535,800 円	全学部・学環 全学科 282,000 円	14,660 円	※その他は、学生教育研究 災害傷害保険等の保険料及 び学生健康保険組合費の合 計金額
教育学部	学校教育 教員 養成課程			14,660 円	
経済学部	全 3 学科			14,660 円	
理学部	全 5 学科			14,660 円	
医学部	医学科			92,690 円	
	保健学科			28,000 円	
工学部	全 7 学科			14,660 円	
農学部	全 2 学科			14,660 円	
共同獣医 学部	共同獣医 学科			21,840 円	
国際総合 科学部	国際総合 科学科			14,660 円	
ひと・まち未 来共創学環	-			14,660 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
（概要） ・学生支援センターを設置し、各学部・学環及び研究科の学生担当部署と連携し、学生を支援しています。センター内の組織は以下のとおりです。 （１）学生相談所 学生相談の対応、学生生活の適応を促進するための教育 （２）自主活動ルーム 課外活動、ボランティア、学生指導及び生活環境に関する支援 （３）学生特別支援室 障害学生の具体的な支援内容の策定、障害学生の所属する学部・学環・研究科への支援、助言及び連絡調整、障害学生支援者の養成 ・高等教育修学支援新制度の対象者は授業料及び入学料の全額、2/3、1/3 及び 1/4 の額の免除を認定しています。 １．対象者 （１）日本学生支援機構の給付奨学生採用候補者となった者 （２）出身高等学校等で日本学生支援機構の給付奨学金の申込みを行い、選考中の者 （３）大学に入学後、日本学生支援機構の給付奨学金の申込みを行う予定である者 免除申請した学生は、免除決定の日まで授業料及び入学料の納入が猶予されます。 ２．制度等の説明 入学時に、授業料及び入学料免除と日本学生支援機構奨学金に関する説明動画の視聴について、アナウンスしている。 ・上記の他、大学独自の奨学金制度（給付及び貸与）を設けています。
b. 進路選択に係る支援に関する取組
（概要） ・キャリアセンターを設置し、各学部・学環及び研究科の学生担当部署と連携し、学生のキャリア形成、就職活動を支援しています。センター内の組織は以下のとおりです。 （１）キャリア教育部門 学生のキャリア教育及び山口県への若者定着・人材育成活動 （２）専門キャリア支援部門 博士課程（博士前期課程を除く）の学生の進学促進、就職相

談 (3) 就職支援部門 学生の職業意識の啓発、学生の就職相談及び就職支援事業
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組 (概要) 「学生・教職員の心身の健康の保持増進を図る」という目的で健康科学センターを設置しています。健康科学センターでは(1)定期及び臨時の健康診断、(2)身体的・精神的健康相談とその支援、(3)保健衛生に関する知識の普及、(4)安全衛生推進活動、(5)感染症対策、(6)健康支援に関する調査・研究などを主な業務とし、学生支援センターと連携し、学生の心身の健康等に係る健康教育や講習会も積極的に実施し、支援機能の向上に努めています。

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

公表方法： https://www.yamaguchi-u.ac.jp/info/legal_public_information/publication_educational_info/index.html 備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

山口大学のSTEAM教育

本学では文理の枠にとらわれないSTEAM人材の養成に向けて、共通教育及び専門教育にSTEAM科目を設定しています。

詳細については、山口大学STEAM教育のHPより抜粋した次頁よりご確認ください。
https://ds0n.cc.yamaguchi-u.ac.jp/~dkikou/yu_steam/index.html

山口大学におけるSTEAM教育

山口大学が定義するSTEAM人材とその教育

本学では、文理の枠にとらわれないSTEAM人材の養成に向けて検討を令和2年度より開始し、令和3年度には全学におけるSTEAM人材・教育の理念や目標等の定義を明確にし、共通教育および専門教育にSTEAM科目を設定することとした。

STEAM人材の定義

「S」「T」「E」「A」「M」を個別に扱うのではなく、これらをメタ的（総合的・俯瞰的）に捉えた論理的思考によって社会の課題解決を図り、イノベーションを人間中心に実行できる人材

STEAM教育の定義

STEAM人材となるのに必要とされる要素（身に付けるべき素養、スキル）を修得するための教育

第4期中期計画

本学は、STEAM人材育成を全学で取り組む教育の重要課題とし、第4期中期計画に以下のように掲げた。

特定の専攻分野に関する知見を持ちつつ、幅広い教養を身に付けたSTEAM人材を養成する。そのため、共通教育において基礎教養と幅広い思考法が修得できる教育プログラムを、専門教育では、学部内・学部間における文理横断・異分野連携による教育を実施する。また、多様な考えを理解し価値を創造できる人材を育成するために、STEAM教育で培った幅広い知見を活かし、地域社会における課題解決の実践に取り組むプロジェクト型学習（PBL）等を実施する。

設定したSTEAM教育を着実に実行するとともに、この教育を受けた学生が専門教育におけるPBL等を通じて、幅広い視野をもって社会の諸課題に取り組める人材の育成を図る。図1が上記定義と中期計画の全体的なイメージである。

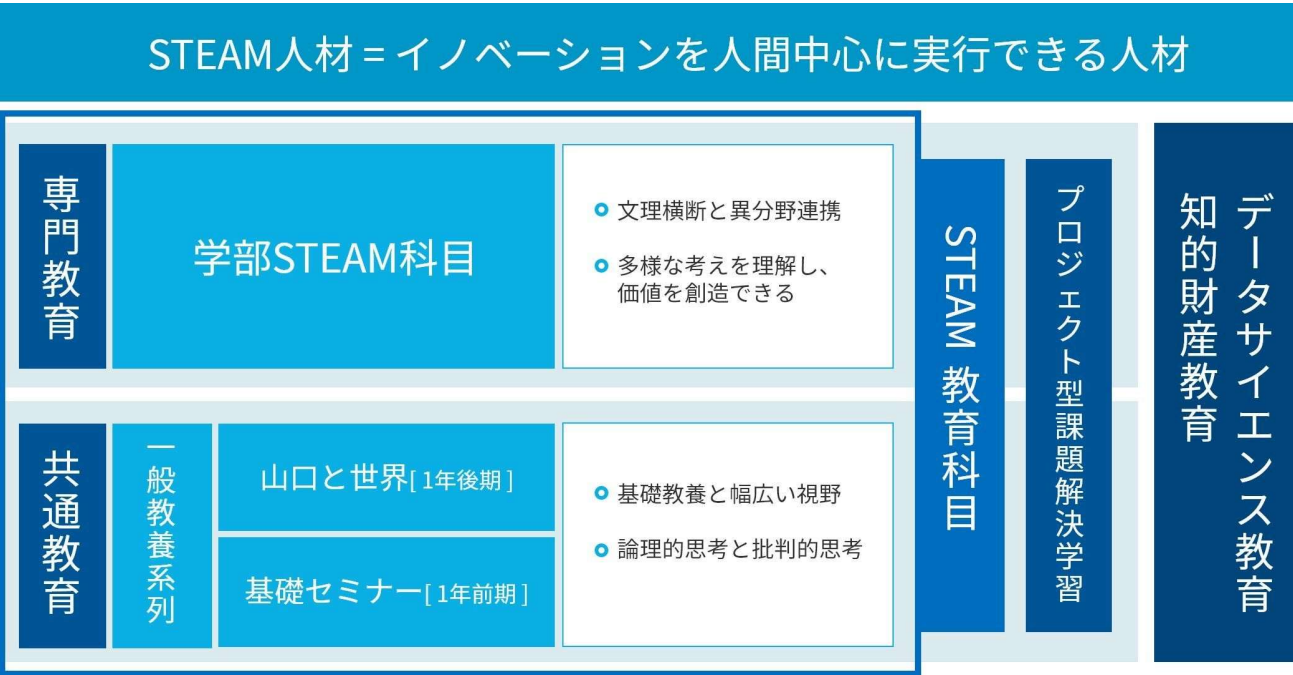


図1 山口大学のSTEAM教育

STEAM教育とは

1990年代からアメリカ合衆国で用いられてきたSTEM概念を元に、[Georgette Yakman](#) が2006年に提唱し、普及させてきたもので、その意味は以下の通りである。

“Science & Technology, interpreted through Engineering & the Arts, all based in Mathematical elements”（エンジニアリングとアーツを通して解釈された科学・技術であり、それらは全て数学的要素を基礎としている。）

STEMは1990年代から全米科学財団（NSF）を中心に用いられるようになった語であるが、「S」「T」「E」「M」を総合することによる教育目標が明確でなく、それを埋めるためにYakmanはArtsを加え、「STEAM」を提唱した。Artsは「芸術」の意に解されることが多いが、「技芸」「学芸」あるいは「学問一般」という意味も持ち合わせている。これにより、価値中立的であった「STEM」を価値志向的な「STEAM」に進化させている。

（詳しくは [川崎教授\(国際総合科学部\)](#)「STEAM教育とは」[\[PDF \]](#)を参照）

ホーム

山口大学におけるSTEAM教育

導入・実施の方針

共通教育におけるSTEAM教育

専門教育におけるSTEAM教育

PBLでの実践

リンク

山口大学教育・学生支援機構

〒753-8511山口市吉田1677-1
TEL 083-933-5062

問合せ先 山口大学学生支援部教育支援課総務係

(C) YAMAGUCHI UNIVERSITY. All rights reserved.

共通教育におけるSTEAM教育

「導入・実施の方針」の3つの構成要素に対応付ける。

(a) 方法論

● 一般教養系列科目

「S」「T」「E」「A」「M」の全てを含む、人文教養、社会教養、自然教養、学際的教養の科目群からなっており、これらの科目を全て学習することが『俯瞰（メタ）的思考』の礎となる。また、一般教養系列科目の中には『デザイン』を身につけるための科目も含まれる。

● 山口と世界

人文学部（人文、教育、経済、国際総合）と理工系学部（理、医、工、農、共同獣医）の学生を混合し、文系理系や学問分野の枠を超えたグループワークにより『俯瞰（メタ）的思考』を体感する。

領域	授業科目名	個別分野		
		科学・技術	人間・文化	社会・環境
人文 教養	哲学		○	
	歴史学		○	○
	社会学		○	○
社会 教養	経済と法1		○	○
	経済と法2		○	○
	経済と法3		○	○
自然 教養	自然科学1	○		○
	自然科学2	○		○
学際的 教養	人間の発達と育成1		○	
	人間の発達と育成2		○	
	文化の継承と創造1		○	
	文化の継承と創造2		○	
	社会と医療	○	○	○
	環境と人間	○		○
	食と生命	○	○	○

表2 一般教養系列科目の個別分野への対応付け

(b) 個別分野

各学問分野で扱われている題材を「科学・技術」「人間・文化」「社会・環境」の三種類に分け、表2のように各授業科目を対応させる。

(c) 数学的思考力

基礎セミナーで扱う。論理的思考（ロジカルシンキング）と批判的思考（クリティカルシンキング）の講義ビデオを用意する。

全9学部の学生が共通の基礎を身につけることにより、「山口と世界」で行われるグループワークを通じた『俯瞰（メタ）的思考』の体感が可能となる。

山口大学のデータサイエンス教育

山口大学では、次頁のようにデータサイエンス教育を実施しています。
（情報・データ科学教育センターHPより抜粋 <https://www.dsc.yamaguchi-u.ac.jp/>）

また、全学の1年生を対象とした「データ科学と社会Ⅰ」「データ科学と社会Ⅱ」は、文部科学省より、数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）に認定されています。

本学のデータサイエンス教育

インターネットの普及に伴って発展してきた情報化社会は成熟期にありますが、今まさに超スマート社会に向けての激変期の序章に入ったと考えられます。現に、以前にはなかった様々な情報機器やサービスが生み出され、世の中に急速に普及してゆく様子を目にされた方も少なくないでしょう。

我が国の第5期科学技術基本計画には、世界に先駆けた超スマート社会を実現する方針として「Society5.0」が掲げられ、仮想現実と現実社会の高度な融合を目指す技術開発が様々な分野で急速に進んでいます。その礎といえるものが「データサイエンス」です。文部科学省は「理工系人材育成に関する産学官行動計画」の中で、成長分野を支える数理・情報技術分野（セキュリティ、AI・ロボティクス、IoT、ビッグデータ分野等）に係るデータサイエンス人材育成の取組を強化する方針を明確に打ち出しています。

リテラシーレベル教育プログラム「データ科学と社会」については、こちらをご覧ください。

初年度教育

山口大学では、工学部、理学部、教育学部に数理・情報の教育組織をもつという特徴を活かしつつ、学内の他の専門分野の教員や、学外との教育機関や産業界との連携を図りながら、超スマート社会の進展に貢献できるデータサイエンス人材の育成を目指しています。

その一環として、平成30年度より全学の1年生を対象とした「データ科学と社会Ⅰ」と「データ科学と社会Ⅱ」という2つの科目を開設しています。

データ科学と社会Ⅰ

「データ科学と社会Ⅰ」では、大学で学ぶ上で必要となる情報処理に関する基本的なスキルを演習を中心として涵養するとともに、H30年度はデータサイエンスの概要を知るために、この分野を先導する研究者や産業界のプロフェッショナルによるビデオ講義を行います。

「データ科学と社会Ⅰ」詳細

データ科学と社会Ⅱ

「データ科学と社会Ⅱ」では、データサイエンスについての理解を深めるため、データから新しい知識や事実を得る方法論、実社会でのデータサイエンス活用事例、学生の専攻学問分野における研究へのデータサイエンスの応用事例について解説を行っています。

<https://youtu.be/NhJ6xv5Qu3w>

専門教育

全学展開のためのデータサイエンス教育基準

データサイエンティスト協会スキルチェックリスト※1をベースにして、拠点コンソーシアムモデルカリキュラム※2を導入し、各学部 of 教育体系に合わせてレベルを決めた独自基準を設定しています。希望する学生には文系・理系を問わず、レベル3までを修学できる体制を整えています。

※1 データサイエンティスト協会のホームページ
<https://www.datascientist.or.jp>

※2 拠点 コンソーシアムモデルカリキュラム
<http://www.mi.u-tokyo.ac.jp/consortium/>

		データサイエンス教育レベル			
		1	2	3	4
人文学部	社会学				
人文学部	その他				
教育学部	情報系				
教育学部	その他				
経済学部					
理学部	情報系				
理学部	その他				
医学部	医学科				
医学部	保健学科				
工学部	情報系				
工学部	その他				
農学部					
共同獣医学部					
国際総合科学部					

（別紙）

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F135110110054
学校名	山口大学
設置者名	国立大学法人山口大学

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		817人（37）人	800人（39）人	863人（39）人
内 訳	第Ⅰ区分	404人	382人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅱ区分	219人	239人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅲ区分	157人	140人	
	（うち多子世帯）	（0人）	（0人）	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	37人	39人	
	区分外（多子世帯）	0人	0人	
家計急変による 支援対象者（年間）				一人（ 0）人
合計（年間）				867人（39）人
（備考） 年間の多子世帯人数については、前期・後期で区分が異なる場合があるため、後期の人数（多い方）を基準として入力しています。 合計（年間）人数は、家計急変による支援対象者（年間）4人を加えた数字としています。				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

（1）偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	25人	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	1人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	13人	人	人
計	39人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の（2）のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

（3）退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	1人
年間計	1人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

（1）停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	2人
訓告	0人
年間計	2人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

（2）適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
GPA等が下位4分の1	26人	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	2人	人	人
GPA等が下位4分の1	77人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	77人	人	人
(備考) 上記人数は合計値の内数。			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。